



令和七年一月二日十五時
三千分より恒例の節分祭・豆
まき神事を計画。
元横綱旭富士・現伊勢ヶ
濱親方率いる伊勢ヶ濱力士
達による迫力の豆まきが執り
行われる。

節分祭には現在一人横綱
である横綱照ノ富士も参加
予定。また、前年優勝力士
である尊富士関・熱海出身
の熱海富士関（前頭三枚目
在籍・宝富士関・翠富士関・
錦富士関が参列予定。

三十年以上続く伝統ある行
事であり、毎年、蒔き手は百
名以上、参加者は数千人に
も及ぶ一大行事である。縁起
の良い節分の福豆は約七千個
準備され、元気の良い豆まき
にて参加者に振舞われる。ま
た、福豆には抽選で景品が贈
呈されるとも。

事故防止の為子供の部・お年
寄りの部が手渡しで行い、そ
のち盛大な豆まき行事を執
り行う。播き手の募集は一
月より公式サイトや案内状を
通じて行う予定。（まき手は
事前申込必要）



出雲大社と相撲は縁が深
く、神話の時代、出雲國造
家の祖先である第十三代出
雲國造 龍體命は野宿宿禰
と称され、相撲の始祖とし
て今も崇敬を集めます。

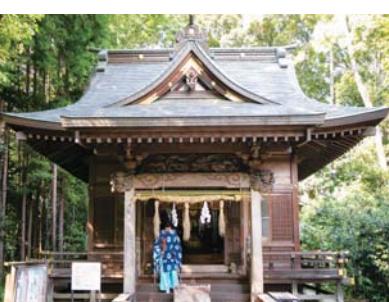
（公式サイトで配信あり）



千支彫刻奉納



境内の鳥居の下に、毎
年干支の真新しい石の彫
刻が奉納される。境内東
側には干支の彫刻が設置
されているが、よく数え
てみると十二支に足りない
ことに気づく。この彫
刻は石を素材とした彫刻
を制作している西巻一彦
さんが手掛けた作品。毎
年その年の干支をテーマ
に彫刻しお正月にお披露
目する。令和七年巳年を
もつて全ての干支が完成



出雲大社相模分祠では、古
くより神道による供養、祖
靈祭祀を啓発している。出
雲大社のご祭神「ダイコ
ク様」は縁結だけでなく
幽冥主宰大神として死後
の世界を司る神様として
伝承される。

当分祠の傍らに鎮座す
る祖靈社は、日本人のご先
祖様の御靈をお祀りし、
大神様の御傍で供養する
ものである。

当社の信徒・崇敬者の
方ならどなたでもご利用
頂けます。実家が仏教で
も、新たに神式に改めご
利用可能です。納骨堂に
ご遺骨を安置して、鎮魂・
ご供養致します。弔い上
げの際には、秦野市渋沢
丘陵にある神道墓地に永
代供養し、里山自然に還
ります。後継者の、のち
の管理や不安・問題も解
消できます。たくさんの
方々の祈りを集める祖靈
社で安心の供養ができます。
普段よりお参りに来
られる神社で、初詣・季
節のお参りの折にご一緒
にお参りすることできる
ので安心です。

お問い合わせは出雲大
社相模分祠まで。事前に
ご予約でご相談ご案内承
ります。



みたままつりのご案内

祖靈社にて、毎月第一
日曜日午後三時より合同
のみたままつりを斎行し
ております。（参加無料）。
神樂をあげて祭詞を奏
上する中、御参列の方の
ご先祖様・愛する故人の
御名前を一人ずつお読み
上げして丁寧に供養致し

ー 祖靈社の神事ー

神葬祭・五十日祭（法
要）・一年祭・水子供養・
お盆・お彼岸供養・埋葬・
永代供養・墓じまい等。
ご相談お問合せは出雲
大社相模分祠まで（要予
約）神事後の直会（会食）
も隣接する出雲記念館で
出来ます。

納骨堂・神道墓地

三十三万円（
永代供養料）



よさこいご縁まつり2025
令和7年4月12・13日（土・日）開催予定

令和七年 節分祭 豪快な豆まき披露 横綱照ノ富士・尊富士ら参列

令和七年
梅まつり

南はだの村
さくらまつり

出雲大社相模分祠でよさこい
ご縁まつりご縁に感謝！

シバヤギの
モモ

◇二月三日～二月末頃迄
秦野最大級の櫻の樹林帶
の中にある境内は、樹齢百
年を超える梅の古木で囲ま
れます。春の息吹を感じ、
梅花を眺めながらお過ごし
下さい。期間中は境内で甘
酒頒布。巫女が手作りで丁
寧に作っております。

そのほか紅梅提灯・吊る
し雛やライトアップも実施。
さくらまつりの花見客で賑わう。車から
通る秦野桜みちは約六・二
kmにわたる県内で一番長い
桜並木道とされ、たくさん
の花見客で賑わう。車から
降りて当分祠の桜まつりに
足を運んで下さい。

令和六年三月二十二日～
四月十三日の期間、境内に
定御朱印・桜のライトアッ
プや出店で賑わう。近くを
通る秦野桜みちは約六・二
kmにわたる県内で一番長い
桜並木道とされ、たくさん
の花見客で賑わう。車から
降りて当分祠の桜まつりに
足を運んで下さい。

出雲大社相模分祠開催の
よさこい祭り。出雲大社相
模分祠青年会「teamIZUMI」
が主体となり、「よさこいご縁ま
つり」を開催。桜舞い散
る中、踊り子約千人が参
加。勇壮なよさこい奉納。
露店も賑わい、二日間の來
場者は数千人。老若男女全
ての世代に踊りを通じて、
ご縁に感謝！

出雲大社相模分祠でよさこい
ご縁まつりご縁に感謝！

令和三年二月より、当分
祠の除草作業を担うシバヤ
ギのモモ。令和七年正月に
四歳を迎えるが角も凧々し
く立派な体つきになつてき
た。雑草を食べて境内をき
れいにしてくれるだけでは
なく、癒しのアイドルとして
人気である。普段は境内竹
林横で休憩している。早朝
など境内をのんびり散歩し
ていることも。おなかを壊
すのでエサやりは禁止だが
記念写真は大歓迎。近づき
すぎて頭突きをされないように
要注意。